

藤沢市立滝の沢中学校

研究テーマ：「主体的な学び合いのために」～意見（思いや考え）を伝え合う・認め合う授業の工夫～

1 実践の目的

滝の沢中学校においては経験年数の浅い教職員が増え、教員同士の人間関係づくりをはじめとする質の高い教育指導の実践継承が求められているところである。

また、令和4年度全国学力・学習状況調査の結果からも、基礎的・基本的な知識・技能の定着、活用する力や表現する力に課題が見られ、さらなる授業改善が求められる。

そこでこのテーマのもと、校内研究に積極的に取り組み、教員一人ひとりが自身の授業改善を進め、学校として取り組んでいくとともに、学区内の滝の沢小学校・石川小学校・駒寄小学校と連携をとり、義務教育9年間を見据えた子どもたちの学びに目を向けていくことで、生徒の「学びに向かう力」の資質・能力のさらなる向上を目指したい。

2 実践の内容

(1) 「学びの質を高める」授業づくり

- 校内研究全体会や授業研究会に、大学研究者、県教育委員会・湘南三浦教育事務所指導主事等を講師、助言者として招聘するとともに、藤沢市教育委員会指導主事を積極的に派遣要請するなどして、研究推進の充実を図った。
- 研究協議会等のもち方を工夫するなどして、校内研究推進担当者の資質及び教職員の意識の向上に努め、校内研究の活性化、校内研究組織の充実を図った。

- 研修会を通して「主体的・対話的で深い学び」の土台となる「互いに認め合う学級づくり」において重要な自己肯定感や自己有用感を育む指導・支援について研修を深めた。

- ICTを活用し、生徒一人ひとりの多様な意見を引き出し、共有する中で生徒の学びを深める授業を工夫した。

- 1クラスを対象に全職員が参観する研究授業を行い、学年の枠を超えたグループ協議を通して、教師の見取りと働きかけの質的向上を図った。

- 「学びづくり」の取り組みが実際に生徒の学びの質的向上につながっているか、年2回、生徒に対して学習に関するアンケートを実施した。

(2) 小・中学校、家庭・地域との連携・協力

- 小・中学校間で積極的な相互交流に努め、地域の実態や児童・生徒の課題を踏まえた小・中学校の連携を推進した。

- “中1ギャップ”解消に向けて9年間を見据え、小・中学校の学びの接続を意識した実践を行った。

- 生徒の学習状況や地域の実情を踏まえながら、家庭と連携した学習習慣の定着を目指した取組を行った。

- 子ども一人一人の基礎的・基本的な知識・技能の定着に向けたPDCAサイクルの確立について研究を進めた。

- 地域の教育資源を活用した取組の充実を図った。

(3) 研究推進体制（研究組織）

①校内研究体制

- ・研究推進委員会 週1回開催
- ・研究全体会 年4回開催
- ・教科会 月1回開催
- ・研究部会
(教科の枠を超えた研究グループ)
- ・拡大研究推進委員会
研究推進委員と各教科主任
(必要に応じて開催)

②研究の進め方

- ・分科会による授業研究
(教科会、研究部会)
- ・研究部会(学年部会)
- ・教科会
- ・講師招聘による研修会
情報提供・研究協議・情報交換
- ・授業公開
- ・研究のまとめ

3 実践の成果

- 昭和大学大学院准教授の副島賢和先生を講師として招聘し、「自尊感情を育むかわり」というテーマで研修会を実施した。そこで、「主体的・対話的で深い学び」の土台となる「互いに認め合う学級づくり」において重要な自己肯定感や自己有用感を育む指導・支援について学ぶことができた。
- 「主体的に学習に取り組む態度」の評価について職員全体で考える機会を設けたことで、授業の中で学習指導要領の趣旨に沿った適切な資質・能力の見取りと働きかけができた。職員が「学びに向かう力」について学べたことにより、生徒の主体的に学ぶ姿勢が高まった。それは全国学力・学習状況調査の質問紙調査においても「国語や英語の勉強が好き」という質問に対して全国や神奈川県平均に

比べ本校の数値が上回っていたことから推察される。

- 小中交流会や様々な本校の研修会において小学校の先生方と意見交換する中で、義務教育9年間という視点で小学校・中学校でそれぞれ育てていかなければならない資質・能力について考えることができた。
- 全職員が参観する道徳の研究授業を行い、大学の研究者や指導主事の講話等により「考え、議論する道徳」について理解を深めることができ、授業改善の良い機会となった。
- 授業公開週間を設け、職員が互いに教科の枠を超えて授業参観し、その後研究協議することで、多面的・多角的な視点で授業研究を進めることができた。
- 研究サブテーマの「意見（思いや考え）を伝え合う・認め合う授業の工夫」について講師を呼び、研修会を実施したことで、我々教師が授業の中で生まれる生徒の“情動”を丁寧に見取る重要性やグループワークの課題、批判的思考を育むことについて学ぶことができた。
- 「学びづくり」の取り組みが実際に生徒の学びの質的向上につながっているか、年2回、生徒に対して学習に関するアンケートを実施したが、昨年度に比べて「積極的に授業に参加することができている」という質問における回答の数値が今年度上がった。

4 今後の展開

- 小中交流がさらに推進できるように年度当初に研究日の設定においては連絡を密に取っていききたい。
- 授業公開週間において、より多くの教員が参観できるように日程の調整等、工夫していききたい。